

第13期
「京都教師塾」
February



平成31年2月23日

学びの広場

京都市教育委員会 教員養成支援室



第4回教育実践特別公開講座

講師：総合育成支援課 中村 一郎 首席指導主事
「総合育成支援教育を考える ～「合理的配慮」という考え方～」

今回は総合育成支援課の中村一郎先生に、特別支援教育の現状や合理的配慮、またユニバーサルデザインについて教えていただきました。配慮を要する児童・生徒に対してどのように支援するかについては、事例をもとに「基礎的環境整備として」と「合理的配慮として」の両方の視点から考えることができたのではないかと思います。また、実践事例や支援教材を紹介する国立特別支援教育総合研究所のホームページや、京都市が作成している授業・学級・学校づくりのユニバーサルデザインチェック表についても知ることができました。

以下は、京都市の採用内定者である卒塾生の感想の一部です。採用内定者となった今、もう一度教師塾の講座に参加することで、良い刺激になったようです。



- 合理的配慮を考える上で、学習のスタートをそろえるという言葉がとても印象に残りました。児童一人一人に合わせた支援を考えること、環境を整えることを考えていきたいと思いました。
- 自分一人の判断で動くのではなく、他の先生や保護者の方々と情報を共有して、より良い対応ができるようにしたいと思います。小さなことから認めていき、その子が居心地の良い環境を考えていきたいです。
- 授業や学級経営をする上で、目の前の生徒に合わせた配慮が欠かせない。そのためにまず徹底的な共通理解をしていきたいと思う。全ての生徒にとって、分かりやすく楽しい授業を目指したい。



第8回京都市教育学講座 講師：保護者2名 「先生を目指す塾生に期待すること ～保護者の立場から～」

午後からの教育学講座では、小学校と中学校でそれぞれPTA役員をされている2名の保護者の方に来ていただき、パネルディスカッションを行いました。保護者の方がこれまで出会ってきた先生の姿をもとに、具体的なエピソードを交えながら話ししてくださいました。親として学校や先生に期待することについては、「真摯に、かつ毅然と対応し、子どもに真正面から向き合っていて欲しい」「子どもの声に耳を傾けて、一緒に考えアドバイスしてくれる学校や先生であって欲しい」と話されていました。また、「保護者は先生方の味方であり、応援団でいたい」ともおっしゃってくださいました。

分散会では、「保護者との信頼関係をどう築くのか？」というテーマで話し合いました。挨拶・^{ほうれんそう}報連相・傾聴など、大事なキーワードを取り上げ、活発な話し合いを行っていました。皆さんの中には、保護者は怖い存在だと思っていた人もいたかもしれませんが、子どもを中心に置いて、先生と一緒に子どもを育てていきたいという思いをもっていることに気付かされたことでしょうか。保護者との信頼関係を築くためには、まず子どもとの信頼関係を築くことが大切です。そのためには、日頃の行いはもちろんのこと、わかる授業と学級経営の大切さに目を向けて欲しいと思います。



仲間のレポートに学ぶ

第8回京都市教育学講座【講義】

「先生を目指す塾生に期待すること ～保護者の立場から～」を受講して

1 全体会

PTAはドラマや映画でよく見る敵ではなく、教師の味方、応援団であるということを学びました。2人の保護者の方からいろいろなお話を聞いて学ぶことがたくさんありました。社会人として挨拶や報連相^{ほうれんそう}がしっかりできていたり、物事に対して真正面から向き合っていて考えてくれたり…そういった先生になって欲しいという願いも聞くことができて良かったです。また、PTAをしていて良かったこと、その逆に課題として考えていることについて、リアルな思いを聞くことができたので参考になりました。

2 分散会

3点の重要なことにまとまりました。1点目は人間性です。子どもと向き合う姿勢であったり熱血性であったりと、親身になって接することが大切だという話が出ました。2点目は社会人としての基礎・基本です。挨拶や報連相^{ほうれんそう}をすること、子どもを預かっているという責任感を持つことの重要性を感じました。また、保護者と連絡をする際には、悪いことだけでなく良いことも連絡する、学級通信等に学校での出来事や先生の思いを書くなどの工夫が大切だとまとまりました。3点目は授業力です。人間性や報連相^{ほうれんそう}ができていても、授業ができていないとやはり信頼は得られないと思います。先生は勉強を教えるのが最大の仕事だと思うので、私は一番大切だと思います。

3 まとめ

プロとしての覚悟・意識を持つこと大切だという話が出ました。一年目であろうとベテランであろうと「先生」として見られるので、覚悟を持って仕事に全うすることが大切だと思います。また、保護者と話していく中で、対応の仕方やコミュニケーションの取り方も求められると思います。それに関してはまだまだ分からないことがたくさんあるので、積極的に学んでいきたいです。

京都市PTAハンドブック（京都市PTA連絡協議会発行）には、「PTAは学校の最大の応援団」と記されています。一人一人の保護者が、またPTA役員が、本当に自分（教員）の応援団となってくれるかは、日頃から一人一人の子どもを大切にしているかどうかによります。保護者から教えていただいた様に、「誠意ある対応」「報連相」「笑顔で挨拶」「プロとしての自覚」どれも大切です。

FW「先輩の授業に学ぼう」

北総合支援学校 (2/5)

校内を見学させていただけました。



児童の実態に応じた支援についてお話を聞きました。



桂中学校 (2/8)

担任が進める、道徳の時間を参観しました。



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で
「子どもの教育に京都市民運動」を実践しましょう！



京都はくくみ運動